P-32

Post-NICU 病床入室児保護者の生活の質 ～退院支援モデル構築前 SEIQoL-DW pre-test からの一考察～

新潟医療福祉大学 看護学科・高橋智美，塚本康子

【背景】

近年,慢性的な NICU 病床の不足が問題となっている．国立病院機構は Post-NICU 病床等の整備を推進し[1]，また 2009 年に障がい者制度改革が行われた．

しかし，その後も新規に Post-NICU 病床等へ入院した患者の在宅への移行や転院は皆無である[2]．この背景には，地域での受け皿となる施設等のハード面とソフト面である社会資源の整備が発展途上であることの他，家族や専門家ができることもできないと思い込んでしまう「内なる偏見」がある[3]．

そこで，Post-NICU 病床入室児保護者が退院支援モデル構築に参加することで,患児に対する負担感,内なる偏見が緩和できるのではないかと考えた．

今回は退院支援モデル構築前に実施した SEIQoL-DW pre-test の結果を基に考察をしたので報告する．

【方法】

(1)研究方法 ： 記述的デザイン 調査研究

SEIQoLは，Hammond’s Judgment theoryを基に一次元的なQOL index scoreを算出する方法である[4]．SEIQoL-DWはその個人が生活に満足しているか,うまくいっているか自己評価から構成される概念を直接的に評価する尺度であり,個人の5つの重要なCue(生活領域)をVASで測定し,ディスクを用いて重み付けする.そのレベルと重みを掛け合わせて積をもとめ総計したもの(0～100)がSEIQoL index scoreとなる．

①調査方法； SEIQoL-DW を用いた半構成面接

②分析方法； SEIQoL index score の算出

③調査期間； 2012 年 7 月 5 日～7 月 11 日

(2)研究対象： Post-NICU 病床入室児の保護者で研究参加に同意が得られた 4 名

【結果】

表 1.研究対象者の背景

事例	年代	性別	本人以外の家族構成	職業	支援
A	40 台	女	夫,患児	なし	実母
B	50 台	女	夫,患児	ﾊﾟｰﾄ	
C	40 台	女	夫,患児,患児兄弟 2 名,義父母	ﾊﾟｰﾄ	実母
D	40 台	女	夫,患児,患児の兄弟 2 名	なし	

表 2.研究対象者の入院をしている児の概要

事例	研究対象者の入院をしている児の概要				
	年齢	性別	病名	前病床	Post-N 入室後の外泊経験
A	8	男	全前脳胞症	一般床	なし
B	12	男	ﾈﾏﾘﾝﾐｵﾊﾟﾁｰ	一般床	週単位で年に 3 回
C	11	女	脳動脈瘤破裂	ICU→一般	2 泊 3 日を年に 2,3 回
D	9	男	滑脳症	NICU	1 泊 2 日を 1 回

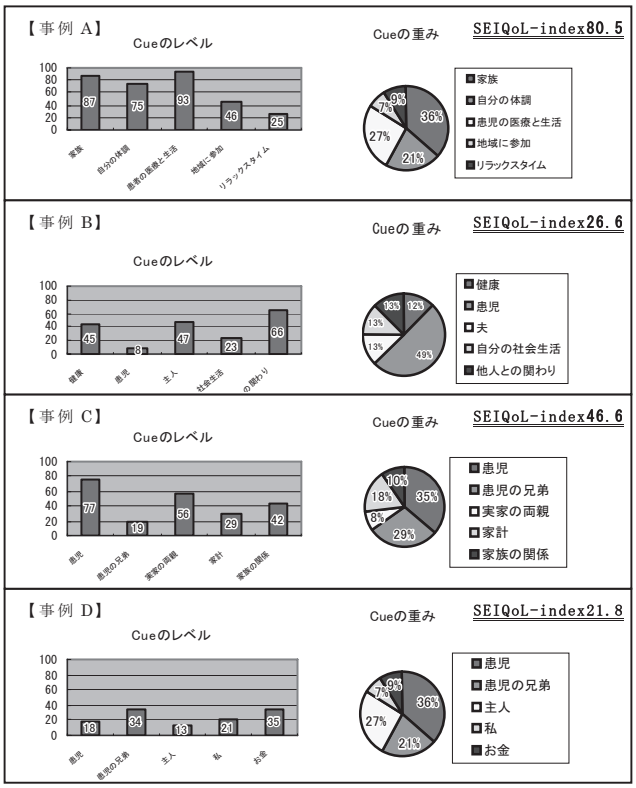

図 1.事例 A～D の Cue のレベルと重み

【考察】

本調査の結果では，事例AのみがSEIQoL index scoreが80.5と高値であり,4事例全てでCueとして上げられた「患児」のレベルも93と高かった．レベルが高いことはそのCueの状態がよりよい状態であることを示している.調査の時点で事例Aは外泊経験がないにも関わらず，退院を目指して医療，生活，教育等の面で退院準備をしていた．退院支援モデル構築参加前ではあったが，SEIQoL index scoreと家族の患児に関係するCueの満足度は高く,これが退院準備に繋がったと推察する．

【結論】

・SEIQoL index score と患児に関する Cue の満足度は退院に関係がある．

【文献】

1) 山邊陽子,山内芳忠,影山操,他.NICU と post NICU の現状調査と課題．国立病院総合医学会講演抄録集．2009；63:270.

2) 辻隆範，山田晋也，脇坂晃子，他．当院重症心身障害児者病棟の現状 Post/NICU 施設としての役割.国立病院総合医学会講演抄録集.2010;64:565.

3) 香田真希子.社会的入院者の退院支援に ACT モデルから活用できること．作業療法ジャーナル．2004；38:1097-1101.

4) 中島孝.ALS 患者の在宅医療 QOL 評価.Journal of Clinical Rehabilitation. 2010；6:589-596.